

宇部市 SDGs未来都市計画
(2021～2023)

「人財が宝」みんなでつくる
宇部SDGs推進事業
～「共存同栄・協同一致」の更なる進化～

宇部市

< 目次 >

1 将来ビジョン

(1) 地域の実態.....	2
(2) 2030 年のあるべき姿.....	6
(3) 2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット.....	8

2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1) 自治体 SDGs の推進に資する取組.....	12
(2) 情報発信.....	19
(3) 普及展開性.....	21

3 推進体制

(1) 各種計画への反映.....	22
(2) 行政体内部の執行体制.....	24
(3) ステークホルダーとの連携.....	25
(4) 自律的好循環の形成.....	30

4 地方創生・地域活性化への貢献..... 31

1 将来ビジョン

(1) 地域の実態

①地域特性

<地理的条件>

宇部市は、本州西端の山口県の南西部に位置し、気候は温暖で、海や山などの豊かな自然環境に恵まれている。

また、山口宇部空港や山陽自動車道、鉄道、宇部港といった陸海空の交通基盤が、市街地に近い位置にあるなど交通環境は整っており、特に、空港から市全域には1時間以内に結ばれるアクセスの良さを有している。



<発展の歴史>

～ 寒村から「共存同栄・協同一致」のまちへ ～

宇部市の発展は、明治期以降の石炭産業の振興を礎としている。

明治維新という大きな時代の転換期において、自らの地域は自らの手でつくるという自治意識が芽生えることとなり、江戸後期から採掘が始まった石炭を礎に、経済的自立を目指した。これにより、明治期以降宇部地域の中心産業となった炭鉱経営においては、誰もが平等に扱われる独特のシステムによって男性、女性を問わず様々な人々が土にまみれ、額に汗しとともに働く姿があり、これが、産業振興、地域発展の大きな原動力となった。

その一方で、宇部の人々の強い郷土意識、強固な共同体的精神のもと、村民で組織した「宇部共同義会」を母体として、石炭で得た利潤を、村立中学校の建設や、県立宇部工業高校の誘致、警察署・郵便局の設置、常盤公園の整備、図書館の建設など様々な社会事業に投資し、地域の基盤づくりが進められてきた。

こうした経緯の中で、宇部の伝統とされる「共存同栄・協同一致」の精神が育まれながら地域経済は発展し、石炭鉱業の発展に伴う人口の急激な増加も背景として、大正 10 年(1921 年)、「宇部村」から一躍「宇部市」へと市制を施行することになった。

～ 「宇部方式」による世界的なばいじん公害の克服 ～

その後、戦災により市街地の大半が焼失したものの、まちの再建にかける市民の熱意と戦後の復興景気とともに、順調な復活を遂げたが、産業の発展とともに、企業の石炭使用量が増加し、「世界一灰の降るまち」といわれるほどのばいじん汚染が大きな問題となった。

この未曾有の危機的事態に対して、宇部市では、昭和 26 年(1951 年)、全国に先駆けて、

条例に基づく「宇部市ばいじん対策委員会」を設置し、その後「宇部方式」と言われる独自の公害対策の取組を積極的に展開し、ばいじん汚染の克服を図った。

この「宇部方式」は、まだ公害対策への法整備が進んでいない中で、地域の「産・官・学・民」の四者が、相互信頼、連帯の精神に根ざして一体となり、自分たちが住んでいる地域社会は自分たちで守ろうという自治意識のもと、情報の公開を基礎に、科学的調査データに基づく話し合いにより公害を克服するもので、まさに、発展の過程で受け継がれてきた「共存同栄・協同一致」といった宇部の精神により生み出された賜物である。

こうした取組が諸外国においても、持続可能な開発の基盤である「環境の保護と改善」を推進するにあたって、広く活用できるものとして国際的にも高く評価され、平成 9 年(1997 年)には、国連環境計画(UNEP)から、自治体として 3 団体目となる「グローバル 500 賞」の授与に至った。

～「宇部方式」による独創的なまちづくりの展開「緑と花と彫刻のまちづくり」～

この頃の宇部市では、戦後の荒廃や貧困などの社会不安が青少年の心をむしばみ、少年の非行が大きな問題となっていた。

こうした事態に対して、人々に潤いをもたらす美しいまちを築いていこうと、女性たちも立ち上がり、市民の憩いの場としての常盤公園の整備事業や、市内企業からの募金による「緑化運動」、全市民層で展開される「花いっぱい運動」、毎年春秋に職場や学校単位で開催される「花壇コンクール」など、後に「緑化事業の宇部方式」という取組が全市的に展開された。

さらに、国内で初めてとなる大規模な野外彫刻展の開催を機に「宇部を彫刻で飾る運動」が進み、現在では、世界各地のアーティストが参加し、野外彫刻展としては国内有数の歴史を誇る「UBE ビエンナーレ」へと繋がっていった。

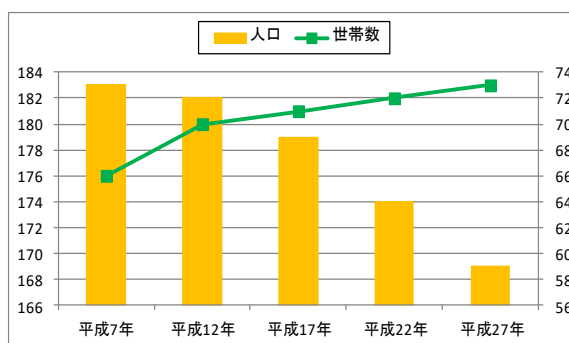
<人口動態>

宇部市の人口は、出生数の低下や転出超過等により、平成 7 年の 18 万 2771 人をピークに減少に転じ、平成 27 年の国勢調査では、16 万 9429 人となっている。

世帯数は昭和 55 年から増加する一方、世帯人員は昭和 60 年に 3.00 を割り込み、平成 22 年で 2.32 に減少しており、単身世帯の増加や核家族化が進行している。

老年人口が昭和 30 年以降上昇する一方、年少人口は昭和 30 年以降減少傾向であり、平成 7 年を境に、老年人口が年少人口を上回り、平成 17 年に高齢化率 23.2%と超高齢化社会に突入した。

《人口・世帯数の推移》



資料：宇部市住民基本台帳、国勢調査

生産年齢人口は、平成 2 年以降に減少傾向であり、これに伴い、労働人口の減少が見られる。

<産業構造>

公害を克服し、順調に発展を遂げてきた宇部市は、先人の先見から、我が国のエネルギーの需要構造の転換にもいち早く対応し、化学工業を中心とする近代的な工業都市へと変ぼうを遂げ、現在の瀬戸内有数の臨海工業地帯が形成された。

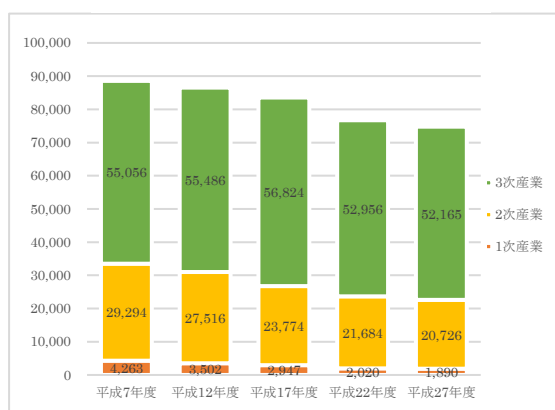
また、理工系を中心とした高等教育機関、研究機関の集積を生かし、民間企業との新技術、新製品開発に向けた取組も進められるなど、ものづくりのまちとして発展し、製造業を中心に、中小企業、小規模事業所の集積が進んでいる。

農業においては、江戸時代に人々が力を合わせ、海浜を干拓する「海開作」や、かんがい用としての常盤湖の築堤が行われたことから、現在においても、比較的市街地近くに田園風景を見ることができる。また市中北部の丘陵地では、水稻や野菜、お茶などの生産が盛んに行われている。

漁業においては、市南部が海に面する地の利を生かし、市内3つの漁港を拠点に、小型底引き網漁業等の沿岸漁業や、県内唯一の海苔養殖漁業が行われ、ガザミ(ワタリガニ)・小海老類は、全国トップクラスの水揚げを誇っている。

しかしながら市内総生産は平成 22 年以降減少傾向にあり、就業人口についても平成 7 年以降は減少傾向である。特に一次産業人口においては、平成 27 年時点で昭和 60 年の 3 割程度にまで減少している。

《宇部市の産業別就業者数の推移》



(国勢調査)

②今後取り組む課題

人口減少、少子高齢化への対応として、様々な取組を進めているが、中小企業、小規模事業者や農林水産業、医療産業などこれまで宇部市を牽引していた産業分野では、人材不足など様々な問題が顕在化している。

これにより、産業規模の縮小、後継者不足による廃業の増加が懸念され、中心市街地の活気は失われ、人口の分散により市全体の行政効率も低下している。

また、地域では、本来有していた地域のつながりも希薄となり、独り暮らしの高齢者が増えるなど、日常生活に困る住民が増加している。

一方で、高度化し急速に普及しているデジタルテクノロジーは、今後、産業、市民生活に大きな変革をもたらすことが予測され、その対応は喫緊の課題となっている。

このため、今後宇部市では、厳しさを増す社会経済情勢の中、持続的に発展を遂げていくために、地域に受け継がれてきた「共存同栄・協同一致」の精神を基調に、多様な主体の連携と、地域の「人財」の育成・活躍促進を図るとともに、ICT、IoTを有効に活用したデジタル革命を、産業や地域づくりで積極的に展開していくことで、持続可能なまちづくりを目指す。

(2) 2030 年のあるべき姿

～魅力・活力・「人財」にあふれた「共存同栄・協同一致」のまち～

- 産業活動が活発に行われ、やりがいのある働く場が創出されています。
- まちはにぎわい、文化は薫り、子どもから高齢者まで誰もが輝いています。
- 地域には、ともに助け合う、安心・安全で豊かな生活があります。

9 年後の 2030 年には、人口減少に一定の歯止めがかかり、魅力と活力にあふれた、持続可能なまちづくりが構築されていることが望まれる。

このため、次の 5 つのまちの姿をイメージした SDGs 未来都市の実現を目指す。

① 産業力強化・イノベーション創出のまち

2030 年においては、中小企業・小規模事業者をはじめ、医療、農林水産業などの地域産業において、ICT・IoT、ビッグデータ等を取り入れたデジタル革命が進んでいる。就労効率は飛躍的に伸び人材不足は解消され、安定した雇用の創出と、働きたい職場づくりが進んでいる。

中小企業では生産性の向上や新たな商品・技術の開発が進み、また、農林水産業においては次世代型農業や各種データを効果的に用いた漁業が進展するなど、就労効率と所得の向上が図られ、一次産品を活用した魅力ある商品開発や販路拡大も進み、6次産業化が活発に展開されている。

また、ICT 等を活用することで、様々な行政課題、地域課題の解決を図り、こうした取組を、多様な主体との連携、共創により積極的に展開していくことで、「起業などチャレンジするなら宇部市」、「新たな価値が創出される宇部市」といった「イノベーションのまち」のイメージが定着している。

② 生きる力を育み、子どもの未来が輝くまち

2030 年においては、核家族化やひとり親家庭の増加などにも対応した、社会全体で子育てを支える、子育てしやすい環境が構築されている。また、ICT 教育、英語教育、環境教育など未来を担う子どもたちの生きる力を育む特色ある教育が実践されている。

さらに、生まれた境遇にかかわらず、全ての子どもたちが希望を抱き、チャレンジできる支援体制が地域全体で構築されている。

③ 健幸長寿のまち

2030年には、子どもから高齢者まで、あらゆる世代が健康づくりに取り組むことができる環境が整備されている。また、誰もが、住み慣れた地域で、安心して、健やかに幸せに暮らすことのできる地域支え合い包括ケアシステムが構築されている。

④ 共に創る魅力・にぎわいあふれるまち

2030年には、中心市街地において、都市機能や居住の集約、事業所立地、魅力ある都市空間の形成が進み、市の顔として、若者から高齢者までの幅広い世代が集い、訪れたくなる魅力・にぎわいを再生している。

また、ときわ公園や彫刻、環境など本市独自の地域資源を効果的に活用した「宇部ブランド」が、市内外に広く認知され、交流人口は飛躍的に拡大している。

⑤ 安心・安全で、快適に暮らせるまち

2030年には、市民の生命と財産を守る都市環境の整備や、地域における防災力の強化が進み、交通安全対策も充実している。

中山間部においては、日常生活に必要なサービスや交通ネットワークが確保された「小さな拠点」が形成され、森里川海の恵みを生かした地域づくりや、地域活性化につながる主体的な取組が盛んに行われている。

また、再生可能エネルギーの利用や、ごみの排出抑制、花・緑と調和した街並み形成など地球温暖化対策に向けた取組が地域一体となって展開され、環境への意識が高い持続可能なまちとしての評価が高まり、国際環境協力もより一層進んでいる。

また、地域、家庭、職場など様々な場において、市民一人ひとりが、互いの立場、人権を尊重した、差別の無い地域社会が形成され、女性の活躍が一層進んでいる。

(3) 2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8 8. 2 8. 3 8. 5 8. 9	指標: 事業化・創業実現件数【件】(累計)	
	現在(2020 年 3 月):	2030 年:
	90	390
	指標: 多様な働き方確保支援センターにおける就職マッチング件数【件】(累計)	
	現在(2020 年 3 月):	2030 年:
	87	360
	指標: 観光客数【万人/年】	
	現在(2020 年 3 月):	2030 年:
	182	230
 9 9. b	指標: ICT・IoT などの新技術の活用・導入件数【件】(累計)	
	現在(2020 年 3 月):	2030 年:
	63	320

ゴール8

- ・ICT・IoT、ビッグデータ等を活用したイノベーションを進めていく。
- ・多様な立場の人材が、能力を発揮できる、やりがいのある職場、地域づくりを目指す。
- ・地域資源の活用、観光産業づくりを進め、地域経済の活性化を目指す。

ゴール9

- ・中小企業成長のための環境整備を進める。
- ・産業の多様化と、各産業における付加価値の向上を図る。

(社会)

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
	1	指標: 将来の夢や目標を持っている子どもの割合(中学3年生)【%】	
	1. 2	現在(2020年3月):	2030年:
	1. 4	47.1	61.8
	3	指標: 地域福祉総合相談センター「福祉なんでも相談窓口」の設置数【箇所】(累計)	
	3. 8	現在(2020年3月):	2030年:
		15	15(維持)
	4	指標: 全国学力・学習状況調査結果【全国を100とした指数】	
	4. 1	現在(2019年度):	2030年:
	4. 4	小学校 102.8	小学校 103.0
	4. 7	中学校 101.8	中学校 105.0
	5	指標: 女性活躍推進企業認証数【社】(累計)	
	5. 1	現在(2020年3月):	2030年:
	5. 2	132	400
	5. 5		
	5. b		
	5. c		
	10	指標: 障害がある人にとって宇部市が暮らしやすいまちだと思ふ人の割合【%】	
	10. 2	現在(2020年3月):	2030年:
		37.8	90.0
	11	指標: 中心市街地の休日1日当たりの通行者数【人】	
	11. 2	現在(2020年3月):	2030年:
	11. 3	11,011	16,700
	11. a	指標: 地域計画に基づく新たな取組支援数【件】(累計)	
		現在(2020年3月):	2030年:
		41	138

ゴール1

・経済的に恵まれていない子どもたちを対象に、家庭学習の補完としての学習支援や、食事の提供などを通して、地域における居場所づくりを進めるとともに、健康管理や支援ネットワークの充実を図る。

- ・身近な地域で誰もが気軽に集える場づくりを進め、生きがい対策や仲間づくり、介護予防、健康増進を目的とした様々な交流・活動を促進する。

ゴール3

- ・身近な地域で誰もが気軽に相談できる体制を整備する。
- ・誰もが適切な医療・福祉のサービスを楽しむことができる地域づくりを進める。

ゴール4

- ・未来ある子どもたちが、社会で活躍できる特色ある教育を受ける取組を進める。
- ・社会に馴染めていない若者を取り残さず、社会的・職業的自立を図る。
- ・持続可能な開発のための教育、学習機会の提供と、様々な国々の多様な文化の理解を図る。

ゴール5

- ・女性がその能力を発揮・向上できる環境づくりを進める。
- ・関係機関と連携し、DVの撲滅に向けた取組を進める。
- ・性差を理由とした差別をなくす。

ゴール10

- ・障害のあるなしにかかわらず、安心して暮らすことのできる社会の実現を目指す。

ゴール11

- ・利便性の高い交通体系の構築と、公共施設等のバリアフリー化を進める。
- ・都市部には都市機能や居住を、農村部には「小さな拠点づくり」を進めた、ネットワーク型コンパクトシティを進める。

(環境)

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
 6 6. 5		指標：国際環境協力における研修生受入数【人】(累計)	
		現在(2020年3月): 725	2030年: 1,020
 7 7. 2		指標：公共施設への太陽光発電設備導入箇所数【箇所】(累計)	
		現在(2020年3月): 42	2030年: 50
 9 9. 4		指標：バイオマスを活用した事業創出件数【件】(累計)	
		現在(2020年3月): 6	2030年: 16

	11	指標: 中心市街地の緑化・花壇等整備面積【㎡】(累計)	
	11. 7	現在(2020 年 3 月): 1,951	2030 年: 7,300
	12	指標: 1人1日当たりのごみ排出量【g】	
	12. 5	現在(2020 年 3 月): 994	2030 年: 800
	13		
	13. 3		
	14	指標: アクティビレッジおの(自然環境教育拠点施設)で体験学習する人数【人/年】	
	14. 1		
	15	現在(2020 年 3 月): 7,775	2030 年: 10,000
	15. 4		

ゴール6

- ・新興・途上国に対する上下水道分野等での技術協力・継承に取り組む。

ゴール7

- ・再生可能エネルギー等を活用し、「宇部版シュタットベルケ」を創出する。

ゴール9

- ・バイオマスを活用した地域エネルギー循環システムの構築とバイオマス産業の活性化に取り組む。

ゴール11

- ・緑と花と彫刻に彩られた魅力あふれる都市空間の形成を進める。

ゴール12、13

- ・地球温暖化対策と、ごみ処理コストの削減を目指す。

ゴール14、15

- ・豊かな自然環境を次世代に引き継ぐ取組を進める。

2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組

① ICT・地域イノベーション、働き方改革の推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8 8. 2 8. 3 8. 5	指標:事業化・創業実現件数【件】(累計)	
	現在(2020 年 3 月):	2023 年:
	90	190
	指標:新規農林業就業者数【人】(累計)	
	現在(2020 年 3 月):	2023 年:
	42	58
 9 9. b	指標:多様な働き方確保支援センターにおける就職マッチング件数【件】(累計)	
	現在(2020 年 3 月):	2023 年:
	87	180
	指標:ICT・IoT 活用による社会的課題の解決件数【件】(累計)	
	現在(2020 年 3 月):	2023 年:
	17	39
	指標:ICT・IoT などの新技術の活用・導入件数【件】(累計)	
	現在(2020 年 3 月):	2023 年:
	63	158

高度化したデジタルテクノロジーを積極的に取り入れた製品開発や生産性の向上など、地域産業のイノベーションを積極的に進める。また、これらを推進するため、起業支援や新事業創出を進めるとともに、多様な働き手の確保・育成に取り組む。

② 観光産業の推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI
 8 8. 9	指標:観光客数【万人/年】
	現在(2020 年 3 月): 182
	2023 年: 205
	指標:外国人観光客数【千人/年】
	現在(2020 年 3 月): 11
	2023 年: 22.5
	指標:本市における観光客の旅行消費額【億円/年】
	現在(2020 年 3 月): 123
	2023 年: 135

観光まちづくり推進機構(DMO)などを中心に、地域資源を効果的に活用した地域経済の活性化につながる観光産業づくりを進める。

③ 地域支えあい包括ケアシステムと連携したコンパクトシティの推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI
 3 3. 8	指標:地域福祉総合相談センター「福祉なんでも相談窓口」の設置数【箇所】(累計)
	現在(2020 年 3 月): 15
	2023 年: 15(維持)
	指標:ご近所ふれあいサロン箇所数【箇所】(累計)
	現在(2020 年 3 月): 207
	2023 年: 220
 11 11. 2 11. a	指標:地域計画に基づく新たな取組支援数【件】(累計)
	現在(2020 年 3 月): 41
	2023 年: 68
	指標:地域内交通利用者数【人/年】
	現在(2020 年 3 月): 9,785
	2023 年: 13,100

人口減少や高齢化の進展に対応していくうえで、効率的で健全な都市経営を目指すコンパクトなまちづくりと、住み慣れた地域での生活を支える「地域支え合い包括ケアシステム」を相互に連携させた、持続可能で暮らしやすい地域共生型のまちづくりを進める。

④ 持続可能な開発を学ぶための教育、学習機会の推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4 4. 1 4. 4 4. 7	指標：課題の解決に向けて、自分で考え主体的に取り組もうとする児童生徒の割合【％】	
	現在(2019 年度): 小学生: 32.8 中学生: 39.8	2023 年: 小学生: 全国平均+4.0 ポイント以上 中学生: 全国平均+4.0 ポイント以上
	指標：中学校卒業段階で英検3級程度以上の英語力を身につけた生徒の割合【％】	
	現在(2020 年 3 月): 45.9	2023 年: 51.0
	指標：環境教育プログラム実施校数【校】(累計)	
	現在(2020 年 3 月): 7	2023 年: 16

持続可能な開発に向けて、主体的に行動できる人材を育成するために、知識の伝達に留まらず、体験や体感を通じた教育、学習機会の提供に取り組む。

⑤ 若者・女性の活躍推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4 4. 1 4. 4 4. 7	指標：高校生の市内就職割合【％】	
	現在(2020 年 3 月): 46.5	2023 年: 54.0
	指標：「まちづくり」イベント・行事の企画・運営に参画した市民(高校生以上 30 歳未満)の人数【人】	
	現在(2019 年 3 月): 176	2023 年: 300

	5	指標: 女性活躍推進企業認証数【社】(累計)	
	5. 1	現在(2020 年 3 月):	2023 年:
	5. 2	132	230
	5. 5	指標: 女性職場環境改善件数【件/年】	
	5. b	現在(2020 年 3 月):	2023 年:
	5. c	9	10

若者が、地域づくりやまちづくりに参画できる機会を増やすとともに、その活動を支援する。また、子育てや家族を介護している人も含め、女性が就労など社会参画を通して能力を発揮できる環境づくりを進める。

⑥ 共生社会ホストタウンの推進

ゴール、ターゲット番号		KPI	
	10	指標: 障害がある人にとって宇部市が暮らしやすいまちだと思ふ人の割合【%】	
	10. 2	現在(2020 年 3 月):	2023 年:
		37.8	84.0
		指標: 地域福祉総合相談センター「福祉なんでも相談窓口」の設置数【箇所】(累計)	
		現在(2020 年 3 月):	2023 年:
		15	15(維持)
	11	指標: 公共(学校施設は除く)・民間施設のバリアフリー化工事件数【件/年】	
	11. 2	現在(2020 年 3 月):	2023 年:
		37	44

障害のあるなしにかかわらず、お互いの個性を認め合い、安心していきいきと暮らせる共生社会の実現に向けて、ユニバーサルデザインの街づくり、文化やアート、スポーツを通じた心のバリアフリーを進める。

⑦ 子どもの貧困対策、地域の見守り・支え合いの推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 1 1. 2 1. 4	指標: 将来の夢や目標を持っている子どもの割合(小学6年生)【%】	
	現在(2020年3月):	2023年:
	67.0	80.0
	指標: 将来の夢や目標を持っている子どもの割合(中学3年生)【%】	
	現在(2020年3月):	2023年:
	47.1	56.5
 11 11. 3	指標: ご近所ふれあいサロン箇所数【箇所】(累計)	
	現在(2020年3月):	2023年:
	207	220

経済的に恵まれていない子どもたちを対象に、家庭学習の補完としての学習支援や、食事の提供などを通して、地域における居場所づくりを進めるとともに、健康管理や支援ネットワークの充実を図る。

身近な地域で誰もが気軽に集える場づくりを進め、生きがい対策や仲間づくり、介護予防、健康増進を目的とした様々な交流・活動を促進する。

⑧ ガーデンシティの推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 11 11. 7	指標: 中心市街地の緑化・花壇等整備面積【㎡】(累計)	
	現在(2020年3月):	2023年:
	1,951	2,300
	指標: 花・緑と調和した彫刻配置計画の進捗率【%】	
	現在(2020年3月):	2023年:
	66.7	100

本市が公害を克服し、工業都市として発展を遂げる過程で取り組んできた「緑と花と彫刻のまちづくり」の新たなステージとして、市街地の整備に合わせた花の回廊づくりや、市民・企業等と一体となった花づくりや緑化運動、産業化の促進など、「ガーデンシティうべ」を目指した取組を全市的に展開し、他都市に誇れる、魅力ある都市空間を形成する。

⑨ 地域エネルギー・バイオマス産業都市の推進

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
	7	指標: 公共施設への太陽光発電設備の導入箇所数【箇所】(累計)	
	7. 2	現在(2020 年 3 月): 42	2023 年: 47
	9	指標: エネルギー利用のスマート化実証事業数【件】(累計)	
	9. 4	現在(2020 年 3 月): 3	2023 年: 7

地域にあるバイオマスを活用していくため、収集・運搬から、製造、利用までの経済性が確保された一貫システムを構築することによって、バイオマス産業の創出と資源循環型社会の形成に取り組む。また、再生可能エネルギーの導入促進を図り、最適なエネルギーの利活用の仕組みによるスマートコミュニティを推進する。

⑩ 環境保全対策の推進

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
	6	指標: 国際環境協力における研修生受入数【人】(累計)	
	6. 5	現在(2020 年 3 月): 725	2023 年: 780
	12	指標: 1 人 1 日当たりのごみ排出量【g】	
	12. 5	現在(2020 年 3 月): 994	2023 年: 840
	13	指標: 民生部門からの温室効果ガス排出量【千トン-CO ₂ /年】	
	13. 3	現在(2020 年 3 月): 601	2023 年: 491
	14	指標: 汚水処理人口普及率【%】	
	14. 1	現在(2020 年 3 月): 91.7	2023 年: 93.5
	15	指標: 新規農林業就業者数【人】(累計)	
	15. 4	現在(2020 年 3 月): 42	2023 年: 58

持続的な開発に向けた市民、企業等の関心を高め、ごみの排出抑制や森里川海の保全につながる主体的な行動、地域づくりを促進する。また、公害を克服したまちとして、新興・途上国の環境改善につながる国際環境協力や、SDGs の普及促進に取り組む。

(2)情報発信

(域内向け)

次世代を担う「人財」の育成

1. 「せかい！動物かんきょう会議」の開催による次世代を担う「人財」育成

国内で初めて全園での生息環境展示を採用した「ときわ動物園」を対象とする宇部市をフィールドに、「せかい！動物かんきょう会議プロジェクト」、キッズデザイン協議会等の協力を得て、未来を担う子どもたちが世界の様々な文化や環境などを学び、持続可能な社会について考える「せかい！動物かんきょう会議」を開催する。このことにより、SDGs 視点(世界的・第三者的視点)に立った多様な発想・行動ができる次世代「人財」を輩出する。また、インストラクターは大学生、留学生、市民から募集し、幅広い層への普及を図る。

2. 首都圏の学生との交流・「人財」育成

首都圏の大学と連携して、ユニバーサルデザイン、環境問題、まちづくりなど SDGs と密接にかかわるテーマについて、宇部市をフィールドとしたインターンシップを実施する。この中で、地元大学の学生や市民との交流を図るとともに、共生社会に向けた街づくりを推進することで、SDGs 視点に立った多様な発想・行動ができる市内外の次世代人材を輩出する。なお、将来的には大学と協議し、地方でのインターンシップの単位化を目指す。

3. 子どもの貧困対策を通じた、次世代を担う「人財」の育成

経済的に困窮した世帯の子どもを対象に、家庭学習の補完としての学習支援や、食事の提供などを行う居場所づくりに取り組み、次世代「人財」の健やかな成長を支援する。

4. 学校教育における「人財」育成

全小中学校で教育活動を SDGs の視点から見直し実践することで、子どもたちが現代社会の課題を自らの問題として捉え、課題解決に向けて主体的に行動できる「人財」を育成する。

共生社会実現に向けた「人財」の育成

5. 共生社会実現を担う多世代の「人財」育成

障害の有無や性別、年齢、国籍の違いに関わらず、全ての人がお互いの人権や尊厳を大切にし、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現に向けて、若い世代をはじめとした幅広い層の支援人財の育成を図り、地域で支える環境づくりを進める。

また、全国で初めて「共生社会ホストタウン」に登録された都市として、次代を担う世代が共生社会について考え、未来を創る力をレガシーとして継承させていくため、中高生を中心に構成された「共生社会ホストタウンジュニアサポーター」が共生社会実現に向けた活動に参加し、情報発信を行う。

中山間地域を支える「人財」の育成

6. 元気・安心・地域づくりによる中山間地域を担う「人財」育成

地域づくりの支援の体制を強化するとともに、地域や農業を支える新たな担い手となる「人財」の確保・育成を図りながら、SDGs の推進を普及啓発する。

施策・事業の展開に伴う情報発信

7. 施策・事業の展開に伴う情報発信

宇部市総合計画や第 2 期宇部市まち・ひと・しごと創生総合戦略などにおいて、SDGs の 17 の開発目標と各事業の取組を整理する。

今後、各施策の個別計画の策定や、セミナー等の機会を通して、SDGs 達成に向けた宇部市の取組を情報発信していく。

(域外向け (国内))

環境活動をリードする「人財」の育成

1. 宇部 SDGs 専用サイトの構築によるネットワークの形成

「宇部 SDGs」専用サイトにおいて、各省庁や SDGs への取組が進んだ企業の HP にリンク設定するなど、効果的な情報発信に取り組む。また、志を同じくする SDGs 未来都市との間で、自治体間はもとより、市民団体間のネットワークを構築し普及展開を図る。

(海外向け)

国際社会で活躍する「人財」の育成

1. 国際交流における「人財」育成、普及啓発

宇部市が姉妹都市協定を提携しているオーストラリア・ニューカッスル市やスペイン・カステジョ・デ・ラ・プラーナ市、友好都市協定を締結している中国・威海市などとの経済交流・「人財」育成を通じて、SDGs の推進を普及啓発する。

環境活動をリードする「人財」の育成

2. 国際環境協力における普及啓発

環境問題を抱える新興・途上国から、産業発展と市民福祉が調和した持続可能なまちづくりを進める「宇部方式」の手法を学ぶ研修生を受け入れ、「宇部方式」を世界に発信するとともに、SDGs の推進を普及啓発する。

(3)普及展開性

(他の地域への普及展開性)

地方都市共通の課題への対応

宇部市と同様の中規模の自治体においては、人口減少、少子高齢化の進行に伴い、産業振興、地域づくりのいずれにおいても、人材不足、担い手不足という問題が深刻な状況になることが見込まれる。

また、まちの顔となる中心市街地は、郊外への大型商業施設の立地、モータリゼーションの進展等により空洞化が進んでおり、まちの衰退が交流人口のさらなる減少を生む悪循環に陥っている。

宇部市では、地域を支える人の力を地域発展の財産「人財」と位置づけ、宇部 SDGs 推進の原動力としている。

そのプラットフォームを衰退が続く中心市街地に設置し、ICT、IoT 等を積極的に活用するデジタル革命を、産業振興を軸に、人材育成や安心・快適な暮らし、環境保全などに起こし、あわせて中心市街地における「人財」の交流・定住を促進することで、にぎわいをもたらし、多くの地方都市が直面する課題の解決につなげる。

地域の「人財」を活かす、汎用性の高い取組

宇部 SDGs は、受け継がれてきた「共存同栄・協同一致」の精神のもと、多様なステークホルダーの英知を結集し、課題を解決する「宇部方式」の手法を取り入れ展開していくもので、大都市や特別な資源を持つ都市ではない、中規模の地方都市が、どの地域も有する「人財」の英知を活かし、つなぎ、課題を解決する取組だからこそ、他の地方都市や新興・途上国の都市においても、汎用性の高い模範的な取組事例となりえる。

ばいじん汚染への対応が、先進事例として国内外の模範となったと同様に、宇部 SDGs による、持続可能なまちづくりに向けたデジタル・産業革命を展開し、国内外の都市をリードしていく。

3 推進体制

(1) 各種計画への反映

1. 第四次宇部市総合計画後期実行計画

2018 年度からスタートした第四次宇部市総合計画後期実行計画では、国が策定した「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」を踏まえ取組を進めることを明示し、SDGs の 17 の開発目標と各施策・事業の取組を整理した。

2. 第 2 期宇部市まち・ひと・しごと創生総合戦略

基本的な施策の方向性の中で、「多様な産業で輝く宇部 SDGs 未来都市」を推進することとし、また、各施策と SDGs の相関を関連表により整理した。

3. 第二次宇部市環境基本計画

環境共生都市の実現に向けて、本市の環境保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するとともに、社会情勢の変化などに伴う新たな課題に対応するため、現状に即した「第二次宇部市環境基本計画」(改定版)を策定している。

この計画は、宇部市環境保全条例第 8 条に基づき策定したものであり、環境行政のマスタープランとして、本市の環境保全・創造の目標とその実現のための方策を示し、本市各部署の環境保全に関する諸施策間の連携を図り、施策を総合的かつ計画的に進めるもので、また、市民・事業者・研究機関(大学等)・行政の各主体の環境保全・創造に果たす役割や各主体の行動における環境配慮の方向性を示すものであり、ローカルアジェンダ 21 の行動計画としての役割も担う。

計画の位置づけ計画の対象範囲は、大きく地球環境、生活環境、自然環境及び快適環境とし、また、これらに共通する環境教育・環境学習、環境保全活動、環境ビジネス等も計画の対象としている。

4. 宇部市生物多様性地域連携保全活動計画

中間見直しとして、平成 25 年に策定した活動計画を改定するにあたり、SDGs の目標達成との関連を記載している。今後 SDGs の観点を踏まえながら計画を推進する。

5. 地域ふくしプラン

計画の更新にあたり、SDGs の目標達成との関連を記載している。今後 SDGs の観点を踏まえながら計画を推進する。

6. 宇部市高齢者福祉計画

計画の更新にあたり、SDGs の目標達成との関連を記載している。今後 SDGs の観点を踏まえながら計画を推進する。

7. 宇部市障害福祉プラン

計画の更新にあたり、SDGs の目標達成との関連を記載している。今後 SDGs の観点を踏まえながら計画を推進する。

8. 宇部市子どもの貧困対策体制整備計画

計画の策定にあたり、SDGs の目標達成との関連を記載している。今後 SDGs の観点を踏まえながら計画を推進する。

9. 子育てプラン・うべ(第2期宇部市子ども・子育て支援事業計画)

計画の基本理念において、SDGs 未来都市計画との関係について整理した他、各個別施策と SDGs ゴールとの関係を関連表により整理している。

10. その他計画

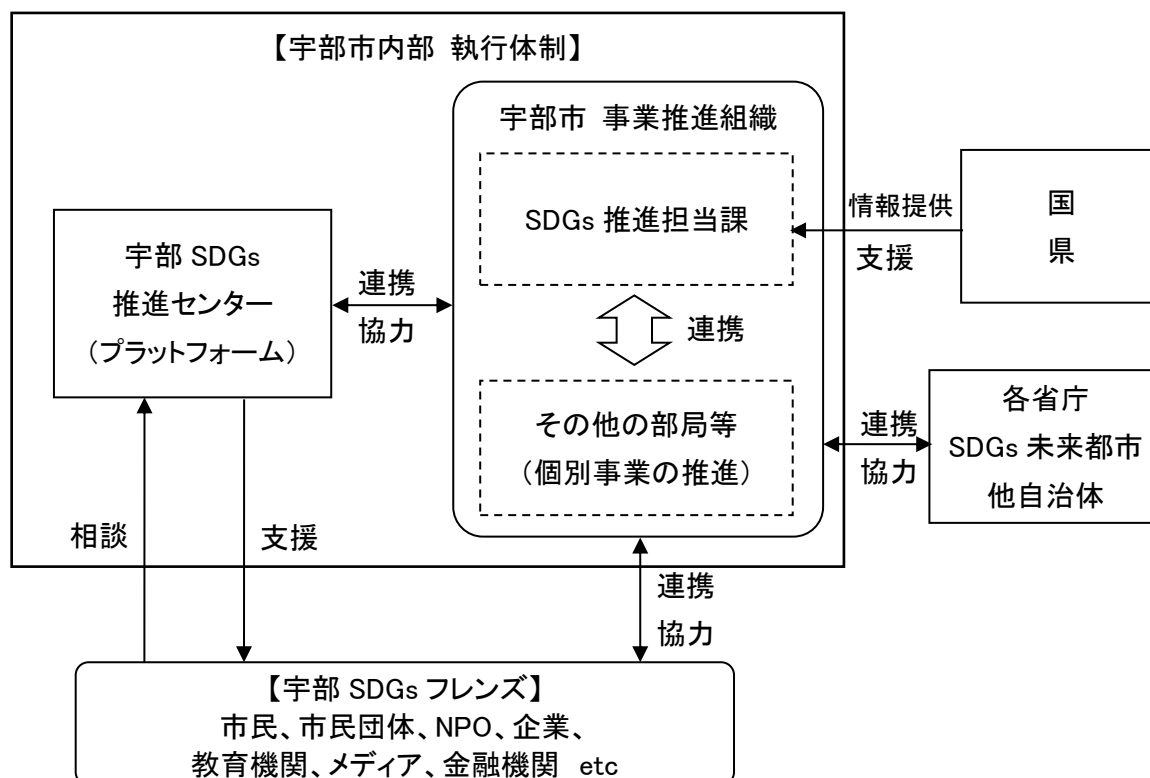
今後、各分野の個別計画の策定、改定にあたっては、SDGs との関連性を明示し、その観点をもって計画を推進する。

(2) 行政体内部の執行体制

2030 年の SDGs 未来都市の実現を目指し、魅力と活力にあふれた、持続可能なまちづくりを推進していくために、施策の融合を図り相乗効果を高めていくことが必要となる。

このため、宇部市では、国や他の SDGs 未来都市をはじめとする各市町との連携を図るとともに、個別の事業を推進する各部署が連携し、市全体で SDGs を推進していく。

また、住民、企業及び教育機関等、市内外を問わず、SDGs のゴール達成に向けた宇部市の取組と、人・物・金・知を結びつけるプラットフォームとして「宇部 SDGs 推進センター」を設置し、多様な主体と共に考え、学び、様々なノウハウを蓄積する場としている。SDGs 推進センターによる人財の育成と、人財と人財・場・知などのマッチングにより、新たな可能性(イノベーション)を生み、自ら気づき、考え、行動できる地域の人財と基盤を構築する。また、市民や市民団体等から相談された課題に対し、SDGs 推進センターが、関連する知識や技術を有する、教育機関、企業等とのマッチングを図り、関連情報の提供や各種助成制度の活用によって「宇部 SDGs フレンズ」の活動を支援する。



(3) ステークホルダーとの連携

1. 域内外の主体

(オープンイノベーションシステム推進にかかる連携)

新事業創出や生産性向上など中小企業・小規模企業が抱える課題への対応や、創業支援、地域課題の解決を図るため、宇部商工会議所、市内金融機関、山口大学、高専、県産業技術センターなど多様な主体の連携を強化する。また、「共存同栄・協同一致」を基調に、産業振興と人づくり、まちづくりを同一軸にととらえ、相互信頼と協調の精神をもって、地元経済の循環と自律可能な事業の創出・育成を推進する。

(1) 商工会議所・(株)にぎわい宇部

中小企業・小規模企業の参画を促し、操業における課題や新事業を展開するうえでの課題、生産性を向上するうえでの課題、また、事業効果を高める事業者間の連携可能性等を発掘する。

タウンマネジメントの視点から、事業所の立地、活動をサポートする。

(2) 市内金融機関

新事業展開や、創業等において、金融面から経営支援・アドバイスを実施する。

(3) 山口大学をはじめとした学術研究機関

企業の課題解決を図るうえで、ICT、IoT、オープンデータの活用など、技術面からアドバイスを実施する。

特に、高度な機器が揃い施設が充実している山口大学「志イノベーション道場」を、アイデアの創造や実践の場として、中小企業者によるアイデアの試作・商品化、デザイン、販路拡大などあらゆる分野について、若い人たちの発想も取り入れながら、研究を進め、事業化を図る。

(4) 行政

専門家による総合相談窓口を設置し、起業創業・経営などに関する相談のほか、起業家などのネットワーク形成や、スキルアップ支援など、スタートアップ機能を充実させていく。

また、事業効果を高める事業間連携、異業種企業連携にも取り組む。

あわせて、事業承継への対応や、ICTの活用等において、必要に応じて専門家を加えたチームを編成し課題解決を図る。

(多様な働き方確保の支援にかかる連携)

(1) ハローワーク

これまでの分野ごとに行ってきた就労支援や相談窓口を一元化し、全ての産業を対象とした就労相談や無料職業紹介を行う「多様な働き方確保支援センター」を中心に、深刻な

人手不足に直面する中小企業・小規模事業者の人材確保と、女性や高齢者など意欲のある求職者のニーズに応じた多様な働き方を、ハローワークと緊密な連携を図りながら進める。

(2) 移住・定住サポートセンター

職とあわせて、住居、地域の情報の一元化を図ることで、移住・定住サポートセンターと連携し、移住目的に応じたきめ細かなサポートを実施する。

(3) オープンイノベーションシステム

オープンイノベーションシステムと連携し、企業や地域における人材不足の解消を図る。

(4) 行政

多様な働き手の確保、やりがいのある職場づくりとして、子育て支援や、女性活躍、障害福祉など、他の施策、関係機関との調整を図る。

(ESDの推進、環境活動にかかる連携)

SDGs 推進センターを拠点に、行政と環境団体が連携して、SDGs 推進に向けた環境学習や環境活動などを実施する。

(1) まちなか環境学習館(うべ環境コミュニティー)

「宇部式まち・ひと・しごと創出ゾーン」に立地し、ESD(持続可能な開発のための教育)を推進しているまちなか環境学習館(うべ環境コミュニティー)が中心となり、他の関係機関と連携し、宇部 SDGs 推進につながる、持続可能な開発のための教育、学習機会の開発・提供を図る。

(2) 宇部市地球温暖化対策ネットワーク(地球温暖化対策地域協議会)

地域における温暖化対策や省エネの推進、低炭素社会に向けた交通手段の普及啓発などを実施する。

(3) 宇部環境国際協力協会

環境関連研究生の受け入れや環境専門家の派遣、国際環境問題の啓発など国際環境協力の取組を実施する。

(地域共生型のまちづくり(地域支えあい包括ケアシステム)における連携)

住み慣れた地域で、誰もが安心して自分らしく暮らせるよう多様な主体が連携。

(1) 地域運営組織

地域の実情に基づき、地域の課題を考え解決する仕組みをつくる。

(2) 地域福祉総合相談センター「福祉なんでも相談窓口」

地域運営組織と連携して、地域の実態を把握し課題を明確化。

(3) 社会福祉協議会

地域資源の把握、情報提供等により地域運営組織の取組をサポート。

(4) 行政

地域づくりネットワークの拡大を図り、地域運営組織による自立した地域運営を支援する。

(5) 支援機関

相談・支援サービスの提供

(6) 民間企業、社会福祉法人、NPO

地域貢献としての自主的な活動

(7) 各専門機関(警察、消防等)

情報の共有、連携強化

(8) 多様な働き方確保支援センター

地域を担う人材の提供

(9) オープンイノベーションシステム

地域課題の解決を図るビジネスの創出

(10) 交通創造コンソーシアム

地域の移動手段を確保する交通システムの構築

2. 国内の自治体

(山口県央連携都市圏域での連携)

人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し、活力ある社会経済を維持するための拠点(圏域)形成を目的として、平成 29 年 3 月に協定締結された、宇部市と山口市を中心市とした、6 市 1 町で構成する、「山口県央連携都市圏域」において、今後、SDGs の推進も踏まえながら、圏域内の市町の連携による、市町を超えた観光周遊ルートの開発や、自然

環境の保全、災害対策、外国人の訪問・居住にかかる環境整備などの取組について検討を進めるとともに、自治体レベルでの SDGs 達成の必要性について、相互理解を深めていく。

《連携中枢都市圏域協定提携日 平成 29 年 3 月 30 日》



3. 海外の主体

（姉妹都市オーストラリア・ニューカッスル市との連携）

平成3年度からは中学生のニューカッスル市への研修派遣を開始し、また平成27年度からは、ジュニアグローバル研修事業として、毎年、中学生10名と引率教諭2名を派遣している。

また、日本語スピーチコンテスト優秀者招致事業（宇部市・ニューカッスル市姉妹都市友好協会主催）として平成3年度からニューカッスル市ハイスクール生徒の受入れも実施している。

今後も市内中学生を対象に、ハイスクール訪問を中心とした研修に加え、大学における研修や政府系機関等への訪問を通して、グローバルな人材養成を目指す、ジュニアグローバル研修事業を実施していく。

この研修を通して、広い視野と国際感覚を持つリーダーの育成を図るとともに、石炭・エネルギーを介した生産者・消費者としての両市の結びつきや、少数者であるアボリジニやその文化、移民・多文化国家の暮らし・考え方などに触れることができる貴重な経験の場を提供することで、文化の多様性と、持続可能な開発への貢献の理解を図る。

《姉妹都市協定提携日 1980年11月21日》



（友好都市中国・威海市との連携）

友好都市である威海市とは、昭和63年から交流を進めている。中国では急速な工業化に伴う環境問題を抱えており、引き続き、環境の保護・改善に向けた取組を威海市と連携して進める。

また平成30年2月の宇部市友好訪問団の派遣において、威海市から環境保護人材、介護人材、電子情報人材などの「人材の育成と交流」、省エネ・環境保護分野、健康養老分野での「経済技術協力のメカニズム」、海洋産業の発展、海洋汚染の防止についての「関連産業の国際連合の建設」などの提案があり、今後、これら提案を進める実務的協議の場を設け、取組を進める。

《友好都市協定締結日 1992年5月18日》



(姉妹都市スペイン・カステジョ・デ・ラ・プレーナ市との連携)

平成 25 年 5 月に カステジョ・デ・ラ・プレーナ市（以下、「カ市」。）から宇部市長宛ての親書及び記念品が送付されて以来、交流・連携について協議を進め、平成 31 年 4 月に姉妹都市提携を締結した。

今後は以下の事業において連携・交流し、これらを通じて SDGs の取組を進める。

①アート分野での交流

- ・スペイン人作家によるアーティスト イン レジデンスの本市実施
- ・UBE ビエンナーレや国際アートフェア Marte を通じたアート文化の交流

②食文化での交流

- ・日本料理、スペイン料理など、両市伝統料理の紹介・普及

③経済分野での交流

- ・両市の特産品（本市：緑茶、カ市：オリーブオイル、ワイン、ハチミツ）や、セラミック等の工業製品について、相互紹介・売り込み等

④政策面での交流

- ・ジェンダー・女性活躍、子どもの教育など社会的課題に関する意見・知見の交換

《姉妹都市協定提携日 2019 年 4 月 4 日》



(その他の連携・交流事業)

これまで、新興・途上国 58 か国から 725 人の研修員を受け入れ、「宇部方式」の手法や公害防止技術、水道水質の改善など相手地域の環境問題の解決に向けた研修を引き続き実施し、SDGs の推進を普及啓発していく。

また、本市の上下水道局では、JICA と共同した上下水道分野での技術協力・継承に取り組み、これまでに、コロンビア国ボゴタ市とインドネシア国ブンカリス県に専門職員を派遣した。今後も、「グローバル 500 賞」受賞都市として、国際環境協力に取り組む。

加えて、「共生社会ホストタウン」に登録された都市として、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を機に、本市のホストタウン相手国であるスペインやマダガスカルのパラアスリートを招致し、講演やパラスポーツを通じた交流を行うことにより、幅広い市民に対して異文化や多様性についての理解促進を図る。

(４) 自律的好循環の形成

(自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等)

SDGs に関連する活動に取り組んでいる団体、個人が登録し、相互交流や情報交換を通じて連携を図ることができるプラットフォームとして、「宇部 SDGs フレンズ」制度(登録制度)を構築した。会員は本市内の SDGs に関するポータルサイト、「宇部 SDGs 推進センター」ウェブページ上で、各々の取組について発信でき、相互連携の足がかりとなっている。

また、本市の SDGs 推進の拠点施設である「宇部 SDGs 推進センター」を、新たなビジネス・地域づくりを誘発するイノベーション創出拠点「うべ産業共創イノベーションセンター 志」と併設することで、自律的・自立的循環の形成を促している。

(将来的な自走に向けた取組)

本計画では、「経済」、「社会」、「環境」の三側面でのアプローチの共通項として、ひとづくり・ネットワークづくりをテーマに事業展開している。特に、次世代の育成については教育委員会と連携し、小中学校において SDGs に関する教育に取り組むなど、積極的な浸透を図っている。

また、前述の宇部 SDGs フレンズ制度の運用に加え、市内企業を対象とする「宇部 SDGs カンパニー登録制度(仮称)」を展開することで、企業活動を通じた SDGs の浸透・進展を図ることで、経済活動ベースでの発展的自走を目指している。

4 地方創生・地域活性化への貢献

本市の総合戦略では、「まち」、「ひと」、「しごと」の政策課題・目標に対する横断的なアプローチとして、多様な人財の活躍、Society5.0の推進、SDGsの達成に向けた取組を通じた持続可能なまちづくりを掲げている。

一方で、地域の持続性の追及においては、経済・社会・環境の自律的・自立的好循環が必要不可欠である。

そこで、本計画は、「産業力強化・イノベーション創出のまち」、「生きる力を育み、子どもの未来が輝くまち」、「健幸長寿のまち」、「共に創る魅力・にぎわいあふれるまち」、「安心・安全で、快適に暮らせるまち」づくりを目指した施策を展開する中で、経済・社会・環境の好循環を目指すものとしている。

加えて、まちづくりの根幹を担う「人財」の育成・活躍の推進により、持続可能なまちづくりを進めていくこととしている。

参考:2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴールとSDGs推進に資する取組体系(1)

分野	2030年のあるべき姿に向けた優先的なゴール	自治体SDGsの推進に資する取組									
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		働き方改革の推進 ICT・地域イノベーション、	観光産業の推進	地域支えあい包括ケアシステムと連携したコンパクトシティの推進	持続可能な開発を学ぶための教育、学習機会の推進	若者・女性の活躍推進	共生社会ホストタウンの推進	子どもの貧困対策、地域の見守り・支え合いの推進	ガーデンシティの推進	地域エネルギー・バイオマス産業都市の推進	環境保全対策の推進
経済	8 働きがいも経済成長も	○	○								
	9 産業と資源効率の改善を通じて富をより豊かに	○									
社会	1 貧困をなくそう							○			
	3 すべての人に健康と福祉を			○							
	4 質の高い教育をみんなに				○	○					
	5 ジェンダー平等を実現しよう					○					
	10 人や国の不平等をなくそう						○				
	11 安全で持続可能なまちづくりを			○			○	○			

参考:2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴールとSDGs推進に資する取組体系(2)

分野	2030 年のあるべき姿に向けた優先的なゴール	自治体SDGsの推進に資する取組									
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		働き方改革の推進 ICT・地域イノベーション、	観光産業の推進	地域支えあい包括ケアシステムと連携したコンパクトシティの推進	持続可能な開発を学ぶための教育、学習機会の推進	若者・女性の活躍推進	共生社会ホストタウンの推進	子どもの貧困対策、地域の見守り・支え合いの推進	ガーデンシティの推進	地域エネルギー・バイオマス産業都市の推進	環境保全対策の推進
環境	6 安全な水とトイレを世界中に										○
	7 安全で持続可能なエネルギー									○	
	9 産業と経済活動の振興をつくる									○	
	11 住み続けられるまちづくりを								○		
	12 つくる責任、つかう責任										○
	13 気候変動に具体的な対策を										○
	14 海の豊かさを守ろう										○
	15 陸の豊かさも守ろう										○

宇部市 S D G s 未来都市計画（2021～2023）

令和3年3月 策定